



病院図書室の役割—当院図書室の変遷から—

安東 正子

I. はじめに

姫路赤十字病院の図書室は、今年で32年目となった。振り返ると、時代の流れとともに変化していった図書室運営の方向性がよくわかる。当院の場合のごく一般的な変化を遂げているように思う。大きく分けて次のように4つに区切ることができた。医学書が高価で、ほとんど寄付で成り立っていた創設の頃。日本の景気がよくなって、ほとんど制限されることなく図書を購入できた蔵書数増加の頃。インターネットの普及により、情報収集の方法自体が変化してきたコンピュータ導入の頃。そして図書予算は少なくなったが、図書室におけるサービスは下げることができなくなった現況。それぞれの時期において、当院の図書室が担っていた役割を考えることによって、これからの病院図書室の方向性を探ってみたいと思う。

II. 創設の頃 (図1)

当院の図書室は、ある医師の発案で、若い医師たちが勉強できるようにと医局の一角に開設された。

1972年11月より、図書室中央化に向け準備を開始した。担当者は事務員が兼務で2名配置され主に図書の整理を行い、運営は医師が行っていた。図書の貸出はノートに氏名、書名等を記入する方法をとっている。当時の蔵書数は、単行書189冊、製本雑誌883冊の計1,072冊であった。まだ医学書は高価で、寄贈と寄付金で補った。

1973年4月に、第1回図書委員会が開催される。委員長は小児科部長、以下4名の医師と書記2名(事務員)の計7名で委員会が始まった。図書予算が決められ、和雑誌は1973年1月より、洋雑誌は1974年1月より公費で購入とし、金額は1,338,026円と議事録に記録が残っている。単行書は、図書委員会の了承のもと年の初めに購入することとした。11月には、図書室規約を作成、開室午前8時30分、閉室午後4時30分としている。

1975年、近畿病院図書室協議会に入会。これで近畿圏内の病院とネットワークができ、図書室同士の情報交換や、研修会等に参加することで、図書室の運営により効果をもたらしたと考える。

1977年、姫路赤十字病院誌を創刊。医学論文や統計、院内トピックスを掲載し、図書室からは購入書籍一覧を載せた。

1978年、正式に院内の組織として委員会が認められ、図書委員会規定が作成され現在に至る。

創設の頃	
1972年11月	図書室中央化に向け、準備を開始。 本の貸出を行う(ノートに記入)
1973年4月	第1回図書委員会 図書予算決まる 和雑誌S48.1 洋雑誌 S49.1より 1,338,026円 元院長より20万円の寄付(山本文庫)
11月	図書室規約を作成 開室8:30 閉室16:30
1975年	近畿病院図書室協議会に入会 放射線技師家族より30万円の寄付
1977年	姫路赤十字病院誌を発刊 医師家族より現代外科学大系(100万円)寄贈
1978年	図書委員会規定の作成(委員会を組織化する) 現職医師より10万円の寄付

この経過をみると創設のころの図書室は、利用者に情報を収集する機会と場所を与える役割を担っていたのではないかと考える。

Ⅲ. 蔵書数増加の頃 (図2)

1979年4月、蔵書数が当初の3倍に増加し図書室が手狭になったため、図書室を移転。また、姫路市医師会会員の方へ閲覧のみだが図書室を開放した。7月からは24時間利用可とし、正面玄関横の案内所にカギを置いた。時間外に利用を希望する者は利用者名簿に氏名を記入してカギを借り、使用後に返却した。この形式は、病院が新築移転した2001年まで続いている。この頃から、景気がよい時期だったせい、雑誌の購入量がどんどん増えていった。

1982年、蔵書数が5,000冊以上に増加し、すべてを収納できなくなったため、図書倉庫を増設(図3)。この年、図書目録を発刊した。さらに、定期的に新刊情報を作成し、院内に配布することとした。

1988年、図書室の床の強度に問題があることが判明する。加重がかかりすぎて危ないとのことで製本雑誌は5年分のみを図書室に置き、資料庫を書庫として、毎年1年分を古いものから順に移すようにした。この年、和雑誌127、洋雑誌102タイトル購読している。

1990年、蔵書数が10,000冊を突破、書庫が手狭になったので、病院屋上にプレハブの書庫を増設して戦前の書籍などを保管する場所にした。この年、図書目録を発刊。和雑誌は136、洋雑誌105タイトル購読している。

こうして、蔵書数が増加し、廃棄もせず、1997年にはもう1ヶ所書庫を増設し、院内あちこちに計4ヶ所の書庫ができる結果となった。

このころは図書室の所蔵する書籍・雑誌が利用者の情報源であった。文献を探すために直接、一次資料を見ることが多く、文献相互貸借もさほど利用がなかったことが理由として挙げられる。図書室は、情報を多量に蓄積するためにあったと考えられる。

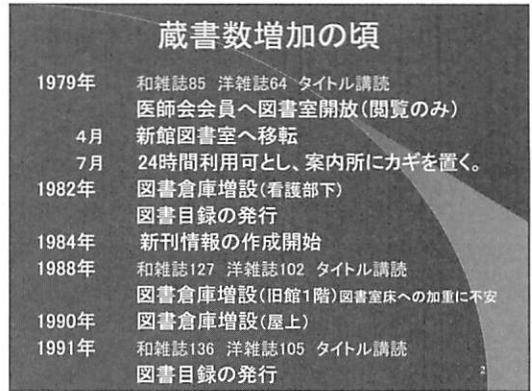


図2.



図3.

Ⅳ. コンピュータ導入の頃 (図4)

1994年、コンピュータの一般普及などの諸事情により、レファレンス・サービス業務が急増してきた(図5)。

1996年、コンピュータ(Macintosh)1台と、文献検索性CD-ROM(医学中央雑誌、MEDLINE)を購入し、文献検索が効率よく行うことができるようになった。しかし、文献複写相互貸借業務が著しく増加して日々の業務を圧迫するようになったため、1997年に相互貸借用のシステムをファイルメーカーProで作成し、業務のスリム化を図った。

1999年11月、病院移転準備のため、新図書室で蔵書として保存できない1985年以前の製本雑誌と1980年以前の単行書の一部等、約5,000冊を廃棄して所蔵可能な数とする(図3)。

2000年1月、ようやくインターネットを接続し、Webでの検索サービスを開始した。これにより院内では初めて、全職員がインターネットを利用できる環境ができた。利用目的は、文献検索、医療情報の収集に限るとし、利用時間は平日午前7時より午後9時までにした。電話交換室に回線のスイッチがあり、時間外に利用希望者があれば氏名を記録し、スイッチを入れ、終了の連絡で切るようにしていた。

この間、コンピュータ (Macintosh) 1台を新たに購入した。先に述べたように CD-ROM版の登場によって文献検索が容易になったこと、その他の要因が重なって文献複写申込・受付が増加したことにより、検索用と業務用のコンピュータを分ける必要が出てきたためである。

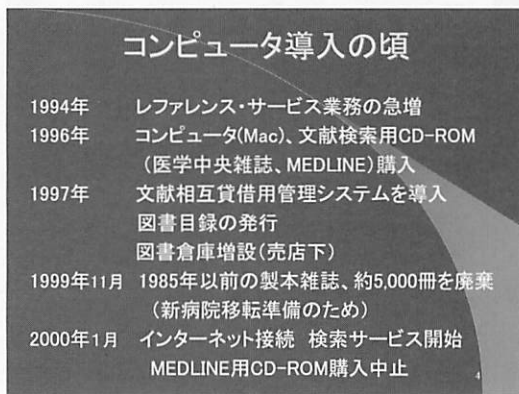


図 4.

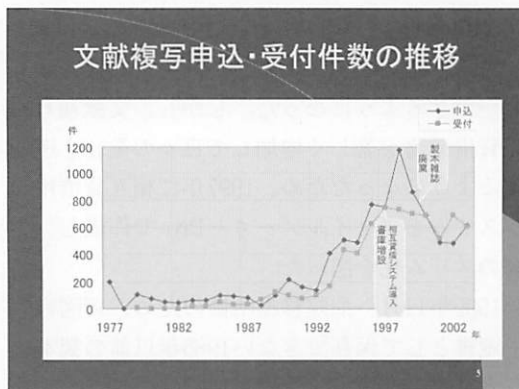


図 5.

インターネットの普及により情報収集のためのツールが増え、安価で図書管理システムが作れるようになった。こうして、集めた情報を整理し、入手しやすい環境であることが病院図書室の要件となっていた。

V. 最近の状況：インターネットを利用して (図6)

2001年11月、当院は病院を新築し移転した。院内 LAN ができたため、院内のどこからでもインターネットのできる環境となった。

今まで新刊情報は紙でコピーしたものを各部署に配布していたが、2002年より、院内 LAN を利用して配信するようになった。新しい看護学校では、情報実習室ができ学生1人に1台の端末で勉強できるようになったため、文献検索演習の授業を開始した。

2003年には、医中誌 Web 版を導入。洋雑誌は一部の電子ジャーナルがフルテキストで閲覧できるエルゼビアホスピタルパッケージを導入。これで Web のみ184タイトル、購読中雑誌の無料電子ジャーナル41タイトルが全文閲覧できるようになった。ただし、予算の関係上、和雑誌13、洋雑誌38タイトルの購読を中止した。

2004年は、新臨床研修医制度が始まったので、Web 版 UpToDate、今日の診療イントラネット版を導入。2005年より MD Consult を導入した。

最近では院内 LAN を生かして情報収集ツール

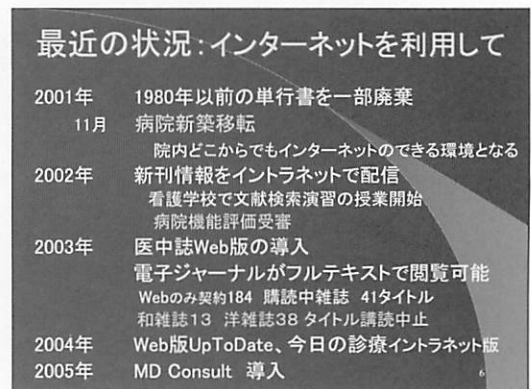


図 6.

の充実を図り、オリエンテーション等で利用者教育を行っている。図書室まで足を運ばなくてもある程度までは各々の部署から情報が入手できるようにしていきたいし、図書室にくる場合にも、入手したい文献などが定まっているようにできればと考えている。ただし、ツールを導入するためには費用がかかる。図書予算をどのように生かすかも担当者の重要な役割になってくるだろう。

VI. これからの病院図書室

最近の病院は、電子カルテ、DPC など、ますます IT 化の進む傾向が見られる。医療の IT 化が進むほどに図書室のありようも変わる。ただ図書を置いているだけでなく、利用者いかに迅速にかつ正しい情報を得てもらおうかを考えなければならない。

図書室は病院の中でも最新情報が常に入る場所であるはずで、そうあらねばならないと思っている。学術的なものだけでなく、あらゆる情報を把握した上で、各署に的確な情報提供ができるようにすることが病院図書室を担当する者

の役割ではないかと私は考えている。そのためには、さまざまなツールを有効に利用できるようなスキルアップを図ること、利用者への指導、評価ができるようになることが大切となる。時の流れ、医療の流れを読み取り、「利用者の来室を待つ」図書室ではなく、静から動へ、「情報を自ら発信する」図書室になりたい。

VII. おわりに

今回、この内容を発表しようと思ったのは、病院図書室の歴史を知っていただきたかったことにある。最近の担当者は司書の資格をもっていても派遣会社の職員であったり、病院職員でも司書でなく事務職として人事異動があったりと、長年担当者として図書室に籍を置くことが難しい状況にある。いきなり担当になって何をしてもよいかわからない方も多いはずである。借越ながら、そのような方々へ、担当する図書室が現在どの程度なのかを把握し、何ができるのかを考えていただくための目安になればと願っている。